

定期作況報告

(第4号 平成13年 8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.6℃、0.6℃低かった。降水量は平年より13mm多く、平年対比116%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より3.9時間多く、平年対比110%であった。夏日（最高気温25℃以上）は9日間であった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.8℃、2.7℃低かった。降水量は平年より15mm少なく、平年対比55%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より15.1時間多く、平年対比132%であった。夏日は4日間であった。

8月中旬：最高気温は平年より3.2℃高く、最低気温は平年より1.3℃低かった。降水量は平年より41mm少なく、平年対比0%であった。降水日数は平年より5日少なかった。日照時間は平年より40.8時間多く、平年対比246%であった。夏日は10日間で、うち1日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.8	26.4	▲0.6	23.8	25.6	▲1.8	28.4	25.2	3.2	26.0	25.7	0.3
最低気温(℃)	16.9	17.5	▲0.6	13.5	16.2	▲2.7	14.8	16.1	▲1.3	15.1	16.6	▲1.5
平均気温(℃)	20.8	21.5	▲0.7	18.4	20.6	▲2.2	21.2	20.2	1.0	20.1	20.8	▲0.7
降水量(mm)	94	81	13	18	33	▲15	0	41	▲41	112	155	▲43
降水日数(日)	5	6	▲1	1	4	▲3	0	5	▲5	6	14	▲8
日照時間(h)	44.5	40.6	3.9	61.7	46.6	15.1	100.5	40.8	59.7	206.7	128.0	78.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由：止葉期は各品種・苗とも平年並～3日早く、出穂期は各品種・苗とも平年並～4日早かった。最終止葉葉数は各品種・苗ともほぼ平年並であった。穂揃日数は8日で、「きらら397」「ほしのゆめ」中苗が平年より2日長く、「きらら397」成苗が平年より1日長かった。稈長は各品種・苗ともほぼ平年並で、穂長は平年並から長かった。㎡当たり穂数は平年並から少なく、「きらら397」中苗が平年対比99%、「きらら397」成苗が平年対比93%、「ほしのゆめ」中苗が平年対比89%であった。出穂後20日の登熟歩合は0.5～3.0%で、各品種・苗とも平年を下回り、初期の登熟は平年より遅れている。

以上、品種・苗を込みにした平均値で穂数が平年より少ないが、穂長が長く一穂粒数が多いと予想されることと、8月中旬の最高気温が高く、登熟が進んできたことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	止葉期 (月・日)			出穂期 (月・日)			最終止葉葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.17	7.19	△2	7.28	7.29	△1	11.3	11.3	0.0
ほしのゆめ 中苗	7.17	7.17	0	7.27	7.27	0	10.7	10.8	▲0.1
きらら397 成苗	7.14	7.17	△3	7.23	7.27	△4	11.0	11.2	▲0.2

注1) 平年値は平成6～12年の7か年から平成6年と平成10年を除いた5か年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ」は平成9～12年の4か年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

3) 止葉期・出穂期：全茎の40～50%に達した日

表3 生育調査

品 種 苗	稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/㎡)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	68.4	68.3	0.1	17.8	16.3	1.5	677	685	▲8	99
ほしのゆめ 中苗	73.7	71.7	2.0	17.3	16.1	1.2	689	773	▲84	89
きらら397 成苗	66.7	68.0	▲1.3	16.7	16.4	0.3	675	722	▲47	93

注1) 平年値は表2に同じ。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日登熟歩合		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	0.5	6.6	▲6.1
ほしのゆめ 中苗	3.0	10.9	▲7.9
きらら397 成苗	1.1	5.3	▲4.2

注1) 平年値は表2に同じ。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋播小麦 : やや不良

事由: 「タイセツコムギ」は、穂数が平年を大きく下回ったものの、登熟日数が43日と長く、粒の充実度に好影響し、そのため千粒重は43.1gで平年を大きく上回り、子実重の対平年比は104%となった。「ホクシン」も「タイセツコムギ」と同様に登熟日数が42日と長く、千粒重が平年を上回ったが、穂数の減少が大きく影響したため、子実重は平年を大きく下回り、子実重の対平年比は91%と低収を示した。2品種平均の子実重対平年比は98%であった。

したがって、作況はやや不良である。

表5 秋まき小麦の収量

品 種 名	穂 数 (本/m ²)			リットル重 (g)			千 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	413	523	▲110	776	758	18	43.1	38.9	4.2
ホクシン	401	628	▲227	785	778	7	42.6	38.8	3.8

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	1142	1341	▲199	519	499	20	104	100	4
ホクシン	1117	1443	▲326	508	556	▲52	91	100	▲9

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年、7年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし : やや良

事由: 抽雄期、抽糸期とも平年より1日早かった。草丈は平年より30cm~49cm高く、葉数も平年より0.5葉~0.6葉多い。

したがって、目下の作況はやや良である。

表6 8月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			抽 糸 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	7.23	7.24	△1	7.28	7.29	△1
P3732	7.29	7.30	△1	8.3	8.4	△1

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	301	271	30	18.1	17.6	0.5
P3732	350	301	49	19.4	18.8	0.6

注1) 平年値は、前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) △は平年より早を示す。

4) 大豆 : やや不良

事由： 開花期は平年より3日早かった。前期までの徒長傾向と7月下旬の長雨で全面的に倒伏した。両品種とも主茎長及び主茎節数はほぼ平年並で、分枝数は平年を上回っている。倒伏と8月上旬までの低温傾向が影響し、着莢数は「トヨムスメ」、「トヨコマチ」とも平年を下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表7 8月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.13	7.16	△ 3	65	62	3	10.2	10.4	▲0.2
トヨコマチ	7.12	7.15	△ 3	65	66	▲ 1	11.0	11.0	0.0

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	8.1	7.0	1.1	82.2	88.2	▲6.0
トヨコマチ	7.3	6.4	0.9	81.7	83.2	▲1.5

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年(最豊)及び平成6年(最凶)を除いた5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

5) 小 豆 : やや良

事由： 開花期は平年より1日早まった。前期までの徒長傾向と、7月下旬の降雨により倒伏した。両品種とも生育は旺盛で、主茎長及び本葉数は平年を上回っている。分枝数は「サホロショウズ」で平年より少ないものの、「エリモショウズ」では平年を上回っている。8月上旬までは低温であったが、その後気温が高めに推移していることもあり、着莢及び粒の肥大は順調である。

したがって、目下の作況はやや良である。

表8 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.19	7.20	△ 1	80	59	21	12.3	10.7	1.5
エリモショウズ	7.22	7.23	△ 1	72	54	18	12.8	11.0	1.8

品 種 名	分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	5.2	6.2	▲ 1.0
エリモショウズ	7.3	6.2	1.1

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや良

事由: 「男爵いも」の枯凋期は、7月下旬に発生した疫病と、8月上旬以降の少雨、中旬には高温の影響を受け、平年より9日早まった。試し堀を行ったところ、7月下旬～8月中旬までの多日照と、8月中旬を除いて気温が平年より低めに経過したことから、塊茎の肥大とでん粉の蓄積が良好で、上いも収量は平年を約1割上回っており、でん粉価は平年並である。

「農林1号」の生育は、前期までやや徒長気味に経過していたが、8月上旬以降の少雨・多日照と中旬が高温であったため、茎の伸長が抑制され、ほぼ平年並となっている。したがって、目下の作況はやや良である。

表9 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名	茎 長 (cm)			枯 凋 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	92	91	1	—	未達	—
男爵いも	—	—	—	8.17	8.26	△9

注1) 平年値は、前3か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

7) てんさい : 不良

事由: 7月下旬の降水量は平年に比べやや多かったが、8月上・中旬は少なく、また、8月中旬は高温傾向に推移した。このため2品種とも、草丈は平年をやや上回っているが、前期に比べて生葉数ならびに根周も対平年の差が大きく開いており、いわゆる徒長気味の生育で、根部の肥大が劣っている。

したがって、目下の作況は不良である。

表10 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	66	61	5	26.6	27.7	▲1.1	25.9	29.6	▲3.7
ストーク	65	60	5	25.6	28.0	▲2.4	29.9	31.5	▲1.6

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

「ストーク」の平年値は、前4か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。